

別記第5号様式(第8条関係)

平成29年度政務活動費収支報告書

平成30年4月6日

北広島市議会議長 佐藤敏男様

会派名 市民ネットワーク北海道

代表者名 田辺優子



北広島市議会政務活動費の交付に関する条例第7条の規定に基づき、下記のとおり平成29年度の政務活動費に係る収入及び支出について報告します。

記

1 収入 政務活動費 312,000 円

2 支出

使途基準項目	金額(円)	内 容
研究研修費	268,530	議会技術研究サマーセミナー、「子どもの相談・救済機関の役割と課題、生活困窮者自立支援全国研究交流大会、子どもの権利条約フォーラム2017
調査旅費	研究研修費に含む	調査視察（長野県諏訪郡富士見町、長野県茅野（ちの）市）
資料作成費		
資料購入費	4,224	書籍代
広報費	39,647	会派広報紙の印刷
広聴費		
要請及び陳情活動費		
合計	312,401	

3 残額 0 円

注1 内容欄は、主たる内訳を記載すること。

2 支出の使途基準項目別、支払先別の調書を添付すること。

3 政務活動費を充てた経費に係る領収書(領収書を徴することが困難な場合は、経理責任者の支払証明書)の写しを添付すること。

使途基準項目別支払調書(研究研修費)

年	月	日	内 容	支出額	備考
29	8	11	議会技術研究サマーセミナー (8月11～12日 北海道札幌市 2名) 参加費(@2,500×2名)	5,000	
	8	11	同上 交通費(自宅～札幌市内・往復)×2日×2名	6,600	
29	8	24	シンポジウム「子どもの相談・救済機関の役割と課題」(8月24日 北海道芽室町 2名) 交通費(JR特急)	25,020	
	8	24	同上 交通費((自宅～北広島駅・往復)×2名)	1,490	
29	11	11	生活困窮者自立支援全国研究交流大会 (11月11～12日 高知県高知市 2名) 参加費(2名)	22,000	
	11	11	同上 航空券(2名往復)	64,370	
	11	11	同上 宿泊費(2名×2泊)	19,700	
	11	11	同上 高速バス(三宮→高知)2名	11,300	
	11	11	同上 交通費(自宅～新千歳空港、高知市内)	5,500	
29	12	2	子どもの権利条約フォーラム2017in信州 (12月2～3日 長野県茅野市 2名) 参加費(2名)	4,000	
	12	2	同上 航空券(2名往復)	54,160	
	12	2	同上 宿泊費(2名×2泊)	26,460	
	12	2	同上 交通費(自宅～新千歳空港、JR特急、茅野市内)往復	22,930	
合 計				268,530	

市民ネットワーク北海道 視察研修報告書

期 間	平成 29 年 12 月 2 日 ～ 平成 29 年 12 月 4 日まで
-----	---------------------------------------

<視察者> 田辺優子、鶴谷聡美

調査地選定理由
① 長野県諏訪郡富士見町 調査内容：信州型自然保育特化型認定園 野外保育森のいえ“ぼっち”視察 【選定理由】12/3 開催の子どもの権利条約フォーラム 2017in 信州、分科会の報告団体。野外保育実践の様子を視察。
② 長野県茅野（ちの）市 調査内容：茅野市こども館 0123（おいっちにいさん!）、CHUKOらんどチノチノ 視察 【選定理由】中高生世代の若者を対象とした居場所施設。開設から運営に至るまで、子どもたちが参画している取り組みを視察。

野外保育森のいえ “ぼっち”	報告者	鶴谷聡美
<p>長野県の信州やまほいく特化型の認定を受けている幼稚園。専用の園舎は持たず、可能な限り屋外の自然の中で過ごす。集合拠点は、JR信濃境駅から徒歩で20分ほどにある井戸尻遺跡公園で保護者が車などで送り登園。ピクニックシートに自分の荷物を置いて、木登りなどの自由遊び、朝の会、近所に住むボランティアの方による読み聞かせが行われている。</p> <p>活動内容は季節や天候によって組み立てられており、この日はJR信濃境駅を経由して駅近くの公園まで、山道や住宅街の上り坂ルート約1.5キロの道のりを歩いた（視察日登園11名）。山道で木の実を拾い田畑のあぜ道では小川を飛び越え、住宅街では住民の方からおやつが差し入れられる場面もあり、自然の中でのびのびと過ごし地域に見守られている子どもたちの笑顔や表情からは、たくましさも感じられた。</p> <p>【信州やまほいく～信州型自然保育認定制度】 幼児期の子どもを対象に、屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、知力と体力も同時に高めることができるかとされる全国的に注目を集める新しいスタイルの保育・幼児教育。</p>		



茅野市こども館 0123 おいっちにいさん！ CHUKOらんどチノチノ	報告者	鶴谷聡美
<p> JR茅野駅に直結している商業施設にある茅野市こども館は、未就学児とその保護者が利用できる「0123 おいっちにいさん！」と、中高生世代を対象とした「CHUKOらんどチノチノ」が施設の上下階でそれぞれ開設されている。 </p> <p> CHUKOらんどチノチノ（2002年4月開設）は、建設の段階から中高生が参画し施設や運営内容まで全て子どもたちだけで話し合い実現された（多目的スペース、ダンスルーム、防音スタジオ、食堂・キッチン、学習室、こども会議室）。当時は、子どもの参画に対して「たまり場になるのでは」等懸念する大人の声があったが、対話を重ね子どもたちの考えを尊重し建設をスタートした経緯を伺った。以来、「中高生の自治区」として、こども運営委員会が主体的に運営し、行政・市民がサポートしている。利用状況は、登録1,124名、延べ17,413名（2016年度実績）が利用、JR駅直結という利便性から近隣市町からも訪れている。茅野市人口約55,000人 </p> <p> 行政や地域の大人たちが、子どもたちを信じて任せることを実践・運営し続けている現場を視察することができた。当市においても中高生が気軽に利用できる居場所づくりの実現に向けて活動をすすめていきたい。 </p>		

